



# 矢野中通信

10月号

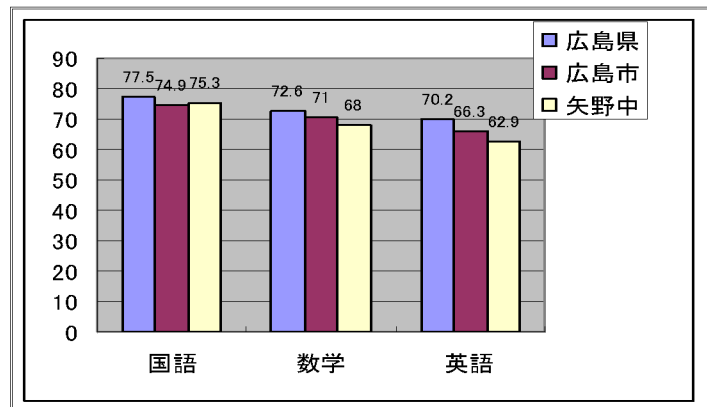
## 「基礎・基本」定着状況調査について

平成22年6月8日に広島県の小学校5年生、中学校2年生全員を対象に「基礎・基本」定着状況調査が行われました。その結果について本校の状況をお知らせします。

### 1. 各教科の平均通過率

国語、数学、英語ともに平均通過率が60%を越えており、おおむね基礎的・基本的な学力は定着していると考えられます。

しかしながら、三教科とも広島県平均を下回り、数学、英語は広島市平均も下回っています。(右のグラフの通り)



### 2. 各教科の課題と改善・取組

#### < 国語 >

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「言語事項」の全領域で平均通過率は70%を越えており、とりわけ「聞くこと」は80%を越え、かなり定着しています。また、「聞くこと」「読むこと」の領域は県平均と市平均を上回りました。

「言語事項」では、基本的な漢字の読み書きは、ほぼ習得していますが、文の成分などの言葉の決まりに課題があります。日ごろの授業の中でも、主語・述語の整った文を書くことを繰り返し復習していきます。

「書くこと」では、意見を支える適切な理由を述べる力・文章全体の構成を考える項目が課題です。集中して話を聞く姿勢をつくること、目的を明確にして自分の言葉で文章をまとめることに取り組んでいきます。

#### < 数学 >

「数と式」「図形」「数量関係」の領域では平均通過率が60%を越えており、おおむね基本的学力は定着していますが、いずれも県平均を下回っています。「資料の活用」では60%を下回っており、課題があります。

「数と式」の領域では、小数の加法や( )を用いた計算、式の値の求め方は80%を越え、学力はかなり定着しています。正負の数の活用や一次方程式の作成、関係を文字式で表すことは課題があります。力をつけるために計算練習を中心に取り組んでいきます。

「図形」の領域では、展開図はおおむね定着していますが、おうぎ形の面積、円錐の体積の計算はかなり課題があります。これからも平面、空間図形両分野の復習を続けていきます。

「数量関係」の領域では比例の意味やグラフの考察に課題がみられるので、関係を式、グラフで表すことを中心に取り組んでいきます。

「資料の活用」領域では、度数分布表の理解度はおおむね定着していたものの相対度数の意味の理解度が低いので、割合の意味を中心に問題をじっくり読んで数量の関係をつかんでいく練習をしていきます。

## <英語>

「聞くこと」、「読むこと」の領域ではおおむね学力は定着していますが、「書くこと」や「話すこと」の領域では課題があります。また、どの領域においても、設問によっては通過率が低くなりました。

「読むこと」においては、しっかりと声に出して単語や英文を繰り返し読む音読練習や暗唱に力を入れ、「書くこと」においては、毎日ノートによる反復練習で基本表現の定着を図っていきます。また、セクションごとの小テストを今後も継続して指導し、英語を書いて表現する機会を増やしていきます。

## 3. 生活と学習に関する意識・実態

○生活習慣：毎日の朝食をとっているのは97%、起床の時間が決まっているのも94%と定着していると思われます。ただし、就寝時間が定着しているのは81%、外に出て運動（部活動含む）するのは72%でやや低い結果となりました。定着できていない生徒も30%近くいるので、日々の規則正しい生活習慣が重要であることを伝えていきます。また、読書については、読書が好きですと答えた生徒が64%いるのに対し、読んだ本について友達や家族と話していない生徒が50%を超えています。朝読書などの取り組みを通して、まわりの人との交流も深めるように工夫していきます

○自己実現力・自己効力感：将来の夢や目標を持っている生徒は70%を越えていますが、その夢や目標がかなうと思っている生徒は60%を割っています。目標の実現のためには具体的に何をどうすべきか考える機会を多く持たせるようにしたいと思います。

努力すれば自分もたいていのことはできていると思っている生徒が75%いました。しかし、自分にはよいところがあると思っている生徒は51%、自分のよさが周りから認められていると思っている生徒は42%とやや低い結果でした。学級活動などで周りから認められるよう、努力した結果についても認め、評価していきたいと思います。

○論理的思考力：物事を解決したり決めたりするとき、なぜそうなるのか理由を考えている生徒が61%、見たことや考えたことを順序よく伝えることができる生徒は54%となっています。これは県及び市の数値と同様の傾向を示しています。順序良く相手に伝えることに関しては、生徒は苦手意識を持っているようです。授業や学級活動の時間に、自分の考えを順序良く相手に伝える機会をさらに増やしていきたいと思います。

○コミュニケーション能力：自分と違う意見も受け入れながら、自分の考えを話すことができる生徒は約70%います。困ったときや腹が立ったとき、解決するために自分の気持ちをことばで伝えている生徒は65%います。これは県及び市の数値をやや越えています。周りの人の意見を受け入れながら、自分の考えを発表する場面を増やしたいと思います。

○学習動機：学校へ行くのが楽しい生徒は87%います。将来のためや、もっと力や自信をつけたいから勉強したり、苦手な教科でもわかったり、できるようになりたいから勉強をしている生徒が70%以上います。さらにわかる授業づくりに努め、意欲的な学習がなされるような環境をつくりたいと思います。

○学習習慣：学校で習ったことを普段の生活の中で思い起こしたり、利用したりすることができる生徒は53%、分からないことをそのままにせず努力している生徒は59%います。しかし、自分で計画を立てて学習をしている生徒や宿題以外のことを進んで勉強している生徒は50%未満でした。これは県及び市の数値と同様の傾向を示しています。自ら課題を見つけて計画を立てて学習する姿勢を身につけさせたいと思います。



この調査で明らかになった各教科の課題を克服していき、全教科を通して生徒が落ち着いて前向きな姿勢で授業に取り組めるよう、授業づくりに力を入れていきたいと思います。

また、生活と学習については、各家庭と連携しながら、さらに生活習慣や学習習慣の確立を目指していきたいと思っていますので、今後ともご協力をお願いします。

